

# 社会福祉協議会と参加型地域福祉活動計画 - 計画能力を形成する諸要素 -

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 萩沢, 友一, Hagisawa, Yuichi メールアドレス: 所属: 金沢大学, 金沢大学, 金沢大学
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/36832">http://hdl.handle.net/2297/36832</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 学 位 論 文 概 要

学位請求論文題名

社会福祉協議会と参加型地域福祉活動計画－計画能力を形成する諸要素－

(和訳または英訳)

The Council of Social Welfare and Participatory Community-based Welfare Action Plan

·The Elements of Building Planning Capability·

人間社会環境学 専 攻

氏 名 萩沢 友一

主任指導教員氏名 横山 壽一

(注) 学位論文概要の表紙

## 論文内容の概要

本研究の目的は、地域住民の問題解決能力を高める地域福祉活動計画を実現する新たな手法を開発するため、住民主体による計画の策定とその推進を図る能力を、住民の側に形成する諸要素を明らかにすることである。

本研究は、6章構成になっており、第1章では、先行研究を参考に本研究における地域福祉の概念を理念、対象、主体、方法に分けて明らかにし、併せて、なぜ地域なのか、地域をどのように捉えるかという点についても論じた。なかでも、大きな意味での地域福祉の対象を、住民の自己組織力とし、地域福祉現場における具体的な地域福祉の対象を、住民の計画能力としたことが特徴である。

第2章では、社会福祉協議会（以下、社協）が推進してきた地域福祉を振り返ったうえで、社協は今後、住民の自己組織力の育成を図る「育成型」社協を目指すべきとし、それを実現するうえでは、地域福祉活動計画、なかでも小地域福祉活動計画の取り組みが重要であることを論じた。そのうえで、自己組織力の形成を促進する計画手法について、先行研究においてどの程度論究されているのか、その到達点と課題を明らかにした。結果、より効果的に住民の能力形成に貢献していると考えられる地域福祉活動計画の実践事例から、その成功要因を抽出し、能力形成に対して有効な計画手法を構築する必要があることを論じた。

第3章では、より効果的に住民の能力形成に貢献していると考えられる地域福祉活動計画の実践事例を、全国の事例から選出するため、全国の市区町村社協を対象に、アンケート調査を行うと同時に地域福祉活動計画書を収集し、それらを精査した。この結果からも、数々の地域福祉活動計画の取り組みのうち、小地域福祉活動計画のそれが最も効果的であることが示唆された。全国において24ヶ所の社協が小地域福祉活動計画に取り組んでおり、そのうち、小矢部市における事例が最も有効である可能性が高いことを論じ、この事例を調査することとした。

第4章では、余語による「地域社会システム」および「開発の二面性と3要素」という概念を分析枠組みとして、計画能力が高いと思われる地区と比較的低いと思われる地区の2地区を1組とすると、合計で3組の事例分析を行った。

第5章では、先の事例研究から、住民の計画能力を形成する要素として、①各地域組織が互いに、日常的なコミュニケーションをとる豊富な機会や仕組み、②計画策定を主導する組織（地域福祉推進基礎組織など）と自治会（自治振興会等）をはじめとする各地域組織とが日常的にコミュニケーションをとる豊富な機会や仕組み、③各地域組織が互いにネットワークを形成するように仲介役を果たす組織の存在、などを挙げることができ、住民は、それら要素を実現するために、様々な工夫をしていることが明らかになった。これらの知見を参考に、住民の計画能力の形成に対して効果的な計画手法を参加型地域福祉活動計画とし、この計画手法を提案した。

終章において、参加型地域福祉活動計画を普及させることが、住民主体による国づくりにつながり、わが国の参加型民主主義の実現を可能とすること、そして、社協の専門性を確立させることにつながることを言及した。

これまでの先行研究においては、全国の地域福祉活動計画の実践事例を概観したうえで、事例研究によって、住民の計画能力を形成する要素を抽出し、それにもとづく実践的な計画手法を提案するといった研究はなかった。本研究は、これまでの地域福祉研究のあり方を問い、住民の計画能力の形成を図る計画手法を明らかにする研究の嚆矢として、意義のあるものとなったと考えている。